

BY BLUE

琵琶湖・淀川の未来を見つめる情報誌 バイブルー

2006

VOL

18



風景

天女羽衣伝説

てんによはごろもでんせつ

その昔、洞畑太夫という男が

湖に舟を浮かべて遊んでいたところ、

空から花が降り、甘い香りと心地良い音が流れてきました。

辺りを見まわすと、

水浴びをしている美しい女の人がいます。

あまりの美しさに太夫は、

そばの柳の木に掛けてあつた衣を隠してしまいました。

そして、困っていた女の人を家に連れて帰ると、

ほどなく二人は結婚。

子どもも生まれ、幸せに暮らしていました。

ところが、ある日、

隠していた衣を女の人が見つけてしまいました。

女の方は、その衣を身にまとうと、

泣く泣く天へと帰っていききました。

そう、美しい女の方は、天女だったのです。

琵琶湖の北、鏡湖とも呼ばれる神秘的な湖「余呉湖」には、

こんな伝説が残されています。

天女が水浴びをしたときに羽衣を掛けた柳の木は、

いまでも湖畔にたえずんでいます。

(写真提供:滋賀県)



おでかけインフォメーション

(以下にご紹介しているのは予定であり、内容等が変更される場合もあります。予めご了承ください)



ふれあい水体験学習会

滋賀県立水環境科学館

ご家族を対象とした体験学習です。ふしぎな水の性質などをテーマに、簡単な実験を行います。

日 時	毎月第3日曜日
申込方法	事前に電話などで予約
費 用	無料



お問い合わせ 滋賀県立水環境科学館
TEL.077-567-2488

2006大阪川開き

春の舟運まつり 水都ルネサンス大阪

桜の名所「大川沿い」を舞台として、水上から桜を楽しめる「さくら舟(水上棧敷席)」(席料等有料)を設置し、水の都大阪の魅力を広く内外に発信します。

日 時	2006年3月25日から4月20日頃まで
場 所	大川、毛馬桜之宮公園周辺 (造幣局桜の通り抜け南門入り口すぐ、 天満橋上流)



お問い合わせ 水都ルネサンス大阪実行委員会
(大阪市ゆとりとみどり振興局)
TEL.06-6615-0678

春のライトアップ

桜の三井寺・琵琶湖疏水

三井寺(園城寺)境内の桜と琵琶湖疏水兩岸の桜が、荘厳な建造物の数々とともに大々的にライトアップされ、美しく浮かび上がります。

日 時	2006年4月1日(土)~17日(月) 午後6時30分~9時30分
場 所	三井寺、琵琶湖疏水兩岸



お問い合わせ (社)びわ湖大津観光協会
TEL.077-528-2772
ホームページ <http://www.otsu.or.jp/>

第37回 鴨川納涼

みんなで考えよう鴨川の治水、利水、環境を。

河川環境美化・保全の啓発コーナーから伝統産業の実演、ふるさと製品の展示即売、特設ステージのイベントまで。京の夏の風物詩です。

日 時	2006年8月5日(土)~6日(日) 午後5時~9時30分(予定)
場 所	鴨川西岸河川敷(三条大橋~四条大橋)



お問い合わせ 鴨川を美しくする会事務局
TEL.075(711)6322

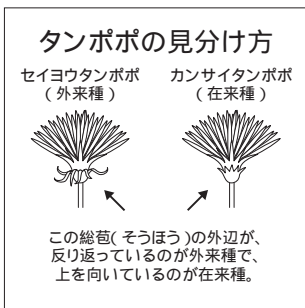


タンポポって、おいし草そう!?



咲いた、咲いた、
タンポポが咲いた

明るい陽ざしを浴びて、緑の野原に映える黄色い花々。タンポポの咲く水辺は、春を象徴する風景のひとつですね。一口にタンポポと言っても、まさに多種多彩。日本だけでも約20種類が自生していて、大別すると、日本で生まれたタンポポと西洋から来たタンポポがあります。関西を中心に分布している在来種は、カンサイタンポポ。外来種は、セイヨウタンポポ。わかりやすい名前です。



カンサイタンポポはご存じのように4〜5月に花を咲かせますが、セイヨウタンポポの花は、ほぼ一年中咲いています。そして全国各地に分布し、今では在来種よりも頻繁に見かけるようになりました。

**サラダ、天ぷら、コーヒー、お茶、
みんなタンポポ**

タンポポは、私たちの目だけでなく、舌も楽しませてくれます。食用に輸入されたものが広がったとされているのがセイヨウタンポポで、ヨーロッパではサラダにして生で食べるのが一般的だとか。日本のタンポポに比べて苦みも少ないようです。作り方は、いたって簡単。きれいに洗って、食べやすい大きさにちぎり、ドレッシングなどをかければ出来上がり。葉と茎は、水にさらしてアク抜きをすれば、より美味しくいただけます。

日本風に、天ぷらにしても良いですよ。タンポポの根っこで、コーヒーもつくれます。よく洗って天日で乾燥させ、小さく切ってフライパンで炒り、コーヒーミルで粉末にして、お湯を注げばコーヒータイム。市販のタンポポコーヒーやタンポポ茶などもあるようです。

出会ったための約束

本当に食べたくなるほど愛らしいタンポポですが、摘むときは、たくさん生えているところから、手で少しだけ摘むようにしましょう。また、河川敷であっても、みんなが親しめるよう特別に手入れをしている花壇などからは摘まないように。数が少なくなると在来種も、そうとしておいてあげてくださいね。この先もずっと、タンポポと出会ったための約束です。



※水辺を歩くときは、ぬかるみなどに足を取られないよう充分気を付けてください。また、草むらにはハチやマムシが隠れていることもありますので注意が必要です。



淀川の岸辺 花も実もある

「水と人との関わりを見つめる」
世界の水辺から

上の4点はイメージ



ツクシ



ヒメオドリコソウ



菜の花



タンポポの実



ホトケノザ



オオイヌノフグリ

地域別に見ると、三川合流付近は、水質の違う三つの川が集まり、地形も複雑であることから、多様な生物が生息しています。豊富な種類の野草が茂り、昆虫や小動物、水鳥なども数多く見られます。また、宇治川と木津川の境に長く伸びた背割堤は、桜の名所となっています。

三川合流付近から枚方大橋辺りまでの地域には、淀川最大のヨシ原である「鶴殿のヨシ原」があります。ヨシとは、イネ科の多年草で、3〜4mもの高さで成長し、生物の隠れ家ともなります。鶴殿のヨシ原の面積は、甲子園球場の18倍にも達するそうです。

枚方大橋から鳥飼大橋にかけては、川幅が広く、流れも緩やかです。両岸に広がる河川敷には、淀川で最も多くの野草地区が設けられていて、たくさんの人に親しまれています。また、「原野」と呼ばれる植物の群生地があつて、中には特有の植物も。そこは、水鳥たちが

生息する貴重な環境でもあります。

鳥飼大橋から淀川大堰までは、ワンドの多い地域です。ワンドとは、河川沿いにできた小さな池のこと。まさに本流とは一線を画した自然環境であり、水面にはウキクサなどの水生植物が生育し、水際にはヤナギの木が育っています。また、豊里のヨシ、オギ群落には、吸盤の付いた蛸の足のような、タコノアシという植物も見られます。

淀川大堰から河口は、淡水と海水とが混じり合う汽水域です。この地域に多いのは、塩生植物。その名の通り、塩水に冠水する場所で生育する耐塩性の植物です。新淀川大橋の下流には、ヨシ原も広がります。この辺りは、都会の真ん中であるにもかかわらず、野鳥の宝庫ともなっています。

さて、そろそろ、散策に良い季節になりました。歩いてみませんか、淀川の岸辺を。きっと、あなただけの、すてきな発見があるはずです。

淡水魚類の宝庫である淀川は、水の外も生命に溢れています。四季折々、特に春から秋にかけては、色とりどりの草花が水辺を彩ります。淀川の支流である大川も、春は桜色に縁取られます。桂川、宇治川、木津川の三川が合流し、幾つもの市を縫って大阪湾へと注ぐ37キロの間には、コケ類やシダ類も含めると、約700種もの植物が生息しているといわれています。



淀川

BYQネットワーク 交流会2006 — を開催しました!



交流会開催状況



基調講演(中野加都子 神戸山手大学助教授)
日本とドイツの文化の違いを通じた、環境に優しい水の使い方についてお話をいただきました。



琵琶湖疏水・見学会
琵琶湖疏水の見学と蹴上周辺地区の散策を行いました。



活動報告・発表会
BYスタンブラー協賛グループなど51の市民団体の方に、会場内に展示したポスターを使って、日頃の活動に関する報告や発表をしていただきました。



琵琶湖・淀川水系の水環境を改善するためには、市民やNPOなど多様な主体が連携して取り組むことが求められています。

そこで、BYQ(財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構)では、BYQが取り組んでいる様々な活動を通じ、流域で水環境保全に関わる人たちのより緊密な交流・連携を目指して、第2回目となる「BYQネットワーク交流会2006」を平成18年2月4日に、みやこめっせ(京都市勤業館)で開催しました。

この交流会には、50を超える市民団体の方など、150名以上が参加し、流域内交流の輪をより一層拡げることができました。



参加・協力いただいた市民団体一覧

東近江水環境自治協議会
滋賀県安土町

草津塾
滋賀県草津市

琵琶湖ネット草津
滋賀県草津市

白川源流と疏水を美しくする会
京都府京都市

明神川美化保存会
京都府京都市

桂川生物保全ネットワーク
京都府京都市

地域と自然
三重県名張市

「ええことネット」交野ケナフの会
大阪府枚方市

琵琶湖・淀川水系を考える会
大阪府大阪市

近畿水の塾
大阪府大阪市

淀川水系の水質を調べる会
大阪府大阪市

人を自然に近づける 川いい会
大阪府茨木市

一鹿ダム飲み水を守る会
兵庫県川西市

蒲生野考現倶楽部
滋賀県日野町

子どもネットワークセンター天気村
滋賀県草津市

里山保全活動団体 遊林会
滋賀県東近江市

有栖川を考える会
京都府京都市

日野川水辺の会
京都府京都市

桂川流域ネットワーク
京都府京都市

依那古体験隊
三重県伊賀市

ひらかた星垂の会
大阪府枚方市

大和川を守る会
大阪府大阪市

ふるさ都・夢づくり協議会
大阪府大阪市

西淀自然文化協会
大阪府大阪市

人と自然とまちづくりと
大阪府大阪市

たかすネイチャー
兵庫県西宮市

水と文化研究会
滋賀県志賀町

びわこ豊穡の郷
滋賀県守山市

ぼてじゃこトラスト
滋賀県大津市

鴨川を美しくする会
京都府京都市

街の探検隊
京都府京都市

やましろ里山の会
京都府南山城地方

鶴殿クラブ
大阪府高槻市

淀川愛好会
大阪府寝屋川市

近木川流域自然大学研究会
大阪府貝塚市

大阪・水かいどう808
大阪府下

環境教育技術振興会
大阪湾沿岸

猪名川・神崎川水質研究グループ
兵庫県川西市

流域ネット猪名川
兵庫県川西市

メダカの学校 小田分校
滋賀県近江八幡市

レイクポイント・カヌークラブ
滋賀県高島市

子どもと川とまちのフォーラム
京都府京都市

クリーン白川の会
京都府京都市

カップ研究会
京都市京都市

川の会・名張
三重県名張市

天の川を清流にする会
大阪府枚方市

ねや川水辺クラブ
大阪府寝屋川市

安威川の自然を守るネットワーク
大阪府茨城市

大阪水都再生基金
大阪府大阪市

きしわた自然友の会
大阪府岸和田市

川西自然教室
兵庫県川西市

琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター（Biyoセンター）は、琵琶湖・淀川水系の水環境改善のために、自然の浄化能力を生かした水質改善など、新たな水処理技術を開発する研究開発の場として、また、水環境改善に対する取り組みについて、多くの人々に知ってもらうための場として設置された施設です。



実験レポート

「湖沼などの底泥を利用したヨシ群落再生実験」

株式会社フジタ

湖沼や内湾などの閉鎖性水域では、アオコの発生原因となる窒素、リンや有機物を多く含んだヘドロと呼ばれる底泥が堆積しています。一方、沿岸ではヨシなどの水生植物群落を復元し、多様な動植物の生息場の復元や水質浄化、景観の保全が求められています。

今回は、湖沼などから除去した底泥（^{しゅんせつど}浚渫土）を水質などへの悪影響の少ない方法で沿岸のヨシ群落の土壤に利用する技術について、BYQの共同実験センターで実施した研究をご紹介します。



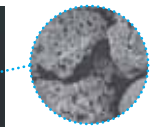
(株)フジタの皆さん

多孔質セラミックスを使用した土質改良

浚渫土をヨシ群落の土壤として使用する場合、シルトと呼ばれる細かい土粒子が多く、水分が多いことからヨシの生育に適した地盤の強度を得にくいこと、シルトなどが多く含まれているとヨシの生育が良くないこと、浚渫土からの窒素やリンが溶出し水質汚濁の原因になる可能性があること、などが課題となります。

フジタでは、製紙工場から発生するペーパースラッジ灰から、多孔質なセラミックス（土質改良材）を製造し、浚渫土と混ぜることにより水分を多く含んだ浚渫土から水を吸収し、瞬時に締め固めてヨシ群落の土壤基盤を造成する実験を行いました。この方法では、①軟弱な浚渫土では難しいヨシの基盤に必要な強度が得られるとともに、②一般にヨシ群落の土壤に使用されている川砂等と比較してヨシの生長が促進されること、③土質改良材の添加や締め固め等により、土壤からの窒素やリンの溶出が抑制されることを実験結果より明らかにしました。また、④浚渫改良土のヨシ群落では、水生生物への悪影響は見られず、陸域ではオケラやミミズ、昆虫の幼虫などの生息も確認されました。

今後、実際の現地に適用できる施工方法を検討し、実用化を進めたいと考えています。



多孔質セラミックス
土質改良材

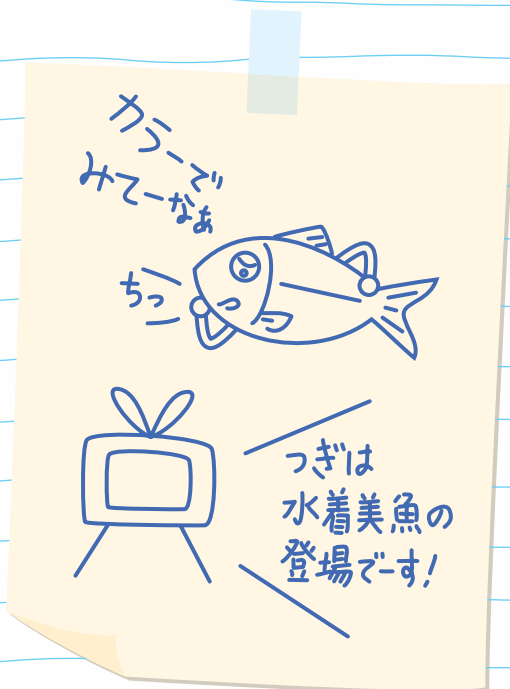
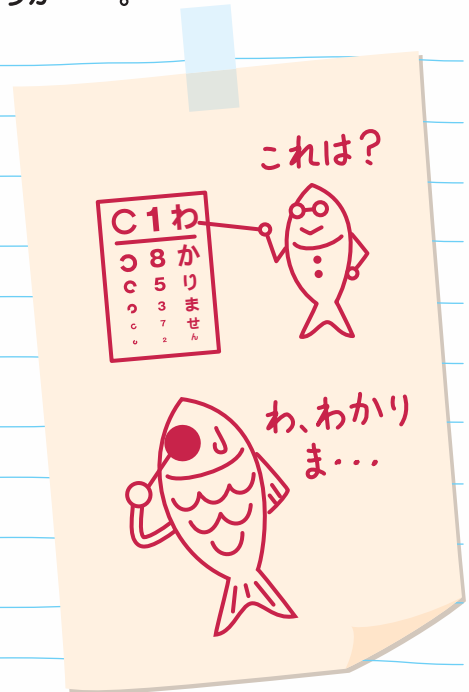


実験施設の全景
左側・右側:浚渫改良土、中央:川砂(在来工法)

色いろいろ見えるの？魚の眼

釣り人は、できるだけ細い糸を使おうとします。仕掛けを見破られないように。ルアーフィッシングなどは、ルアー（疑似餌）の色や形にもこだわります。果たして、魚たちの眼には、どう映っているのでしょうか――。

さまざまな研究結果がありますが、魚の視力は、人間でいうと、だいたい0.1～0.5くらいだそうです。マダイやブリなど沿岸の魚は0.1弱～0.2弱、カツオなど遠洋の魚は0.3～0.6弱、金魚は0.05と、種類によって違いますが、対象物をはっきりと見分けられるのは1～2mの範囲内で、15m以上離れると、ほとんど見えなようです。メガネかコンタクトレンズが必要ですね。でも魚の眼は、まさに魚眼レンズ。球形で顔の真横についているため、広い範囲を見渡すことができます。眼が乾くことがないので、瞬きをする必要もありません。



色が分かるのは、コイ、フナ、アユ、サケやマス類、スズキ、ハゼ、ブラックバスなど。色が分からないのは、カツオ、マグロ、カジキ、チヌ、タコ、イカなど。前者は淡水および汽水域、後者は海水と、すみかを大別することができます。海は50mも潜れば青一色の世界で、色彩で見分ける必要がないのに対し、川や湖は比較的浅く、濁りやすいため、色がなければ見づらい。だから淡水で生きる魚には色彩感覚が発達した。という説もありますが、詳しいことは、まだ研究途中。これから、色々と見えてくるはずですよ。

鴨川を美しくする会

BYQネットワーク

協賛グループの紹介



BYスタンプラリーとは、協賛グループの活動に参加してスタンプを集め、事務局に送付していただくと、素敵な景品を差し上げるといったもの。これまで約1200の方がご応募くださいました。また協賛グループは、53の市民団体と19の水関連施設で構成されています。（平成18年2月末現在）



毎年約15万人が訪れる「鴨川納涼」



小学校でお話をされる杉江事務局長

この誌面では、BYQネットワークで活躍されている市民団体にスポットを当て、その活動内容をレポートします。今回は、『鴨川を美しくする会』の杉江貞昭事務局長にお話を伺いました。



杉江貞昭事務局長

春は桜が咲き、夏は鮎が泳ぎ、秋は紅葉に染まり、冬はユリカモメが飛来する、鴨川。古都千二百年の歴史とともに流れてきたこの川は、今も市民の憩いの場であり、京都を代表する名所の一つでもあります。ところが、市内を縦断する河川だけに、とても汚れていた時期がありました。

「水は工場排水などで汚染され、川畔にゴミが散乱し、木陰にはタンスまで捨てられている始末。山紫水明の地であるはずが、人も魚も寄りつきません。美しい鴨川を取り戻そうと地域住民が立ち上がり、『鴨川を美しくする会』が結成されました。1964年、東京オリンピックの年です」と、杉江さん。会の4代目の事務局長であり、京都河川美化団体連合会の幹事を務めておられます。

「まずはゴミ拾いからです。クリーンハイクと称する清掃活動を3カ月毎に行いましたが、捨てる人と拾う人とのイタチごっこ。これは意識の問題ではと、69年の夏、美化啓発活動『鴨川納涼』を開催し、河川敷に啓発コーナーや夜店を設けました。また、川面を眺めながら料理を楽しむ、歴史ある『鴨川納涼床』に、多くの市民が鴨川に親しみました。現在は150団体を超す協賛・協力を得て、約15万人が訪れる、京の夏の風物詩です。73年の春からは、川沿いの紅いだれ桜を觀賞する『鴨川茶店』も開催しています。今では他府県

からの観光コースにもなっているんですよ」

もちろん清掃活動も継続・発展中で、94年秋には、さまざまな団体や企業の参加を募り、第1回『合同クリーンハイク』を実施。多い年には1,700名以上の規模になるそう。鴨川は、徐々にその美しさを取り戻しました。

「毎年秋の活動として、もう一つ、小学校の総合学習の一環で、子どもたちと『鴨川の水质や水生昆虫の実態調査』を行っています。次代を担う子どもたちに、自然の大切さを理解してもらいたいのです。他府県の中学生が、私の元へ研修に来ることもあります。後日、“地域の川の美化に取り組み始めました”という便りをもたらるのは、本当に嬉しいものです」

杉江さんらの活動は、小学校の社会科の教科書や副読本、百科事典などにも取り上げられています。さらには、外務省の招請で、中国や韓国のテレビ局も取材に訪れました。結成42年。現在、委員26名、個人会員48名、団体会員約280団体。まさしく、鴨川を美しくしてきた会です。

「私たちは、“きっかけ”をつくってきたにすぎません。少しずつ力が集まって、やっと一つの形になるのです。この美しい川が、自然と共生できる社会が、未来に継承されることを切に望みます」と話す杉江事務局長。それは、私たちみんなの願いでもあるはずですよ。



2006年で第32回を迎える「鴨川茶店」



京都の伝統産業である友禅流しを模した「第3回世界水フォーラム」の巨大な歓迎サイン



琵琶湖・淀川クリーンハイク

参加者の感想

- 皆が一丸となって一つの活動ができて良かった。
- 清掃中地域の方から声を掛けてもらい、うれしかった。
- 普段ボランティア活動に参加する機会がないので、参加できてよかった。
- 予想以上のごみがあり驚いた。
- 普段きれいに見える淀川も、よく見ると結構ごみがあった。
- このような活動をしなくていいようになってほしい。



本店で開催したロビー展



環境問題は一部の限られた専門家だけが取り組む問題ではなく、私たちにとっても身近で重要な問題です。

環境へのアプローチでは、環境への取り組みをさまざまな視点からご紹介しています。

今回は、CSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任) 活動の一環として環境保全にも取り組んでいる住友信託銀行の例をご紹介します。

住友信託銀行では、CSRを持続的成長・発展を遂げるための経営の主軸と位置付けて、日本の銀行としてはいち早く平成15年6月から取り組みを開始しました。本業である金融商品・サービスを通じて社会に貢献でき、逆に社会から信頼・評価してもらえるようにと、社会的な価値を創造していくことを目指しています。

これらの活動は各地の営業店ごとに企画され実践されており、その活動のひとつとして、地球環境の保全を目的とした琵琶湖・淀川水系の河川を対象に清掃を行う「琵琶湖・淀川クリーンハイク」を実施しています。これは、身近にできる取り組みとして枚方支店の発案で始めたもので、平成17年度は11月に関西の本店と5支店から社員やその家族約200名が参加し、鴨川、淀川、猪名川などでごみを拾いました。参加者の感想はさまざまですが、環境保全や水資源の重要性が改めて認識された様子でした。

また、実施後には、各店のロビーで活動の趣旨や清掃時の写真展示を開催し、来店者にも見てもらうなど、社外への啓発にも取り組んでいます。平成17年末から18年2月にかけては、(財)琵琶湖・淀川水質保全機構が実施しているクリーンアップキャンペーンなどの広報パネルを同時展示していただき、当機構と連携した啓発活動が行われました。なお、住友信託銀行では、このようなロビー展をいろいろなテーマで40年ほど前から全国の店舗で実施されています。

このように、金融機関においても、通常業務での電気、水、紙などの環境負荷削減対策はもちろんのこと、企業の社会的責任面からの環境配慮に対する活動を行っています。

17号の「環境へのアプローチ」でご紹介した大阪新阪急ホテルのご好意で、環境保全の取り組みにより節約できた費用を当機構にご寄付いただいております。水質浄化研究事業などに活用しています。

BYQ からのお知らせ

琵琶湖・淀川の水質保全に関わる活動に対し、助成事業を行っています。

平成18年度 助成対象活動、募集！

① 琵琶湖・淀川水系の水環境改善事業

- 地域に密着した身近な水質浄化事業
- 水質浄化事業に必要な材料調達システム作りおよび材料調達
- 水質浄化事業におけるリサイクル推進事業
- 上記に関連する研究

② 琵琶湖・淀川の水辺を愛する活動

- 水質の保全・改善に関する活動
- 自然生態、親水、水源涵養の機能を保全・改善する活動
- 水環境について知り、理解する活動

1件あたりの助成金額は30万円程度。助成金の使途は、助成目的を満足させるものであれば特に制限を設けませんが、助成を受けた団体または個人の事務所運営に関する経費、人件費等は除きます。

申込受付期間：～平成18年5月15日（必着）

助成を希望される団体・個人は、応募様式に必要事項をご記入の上、お申し込みください。

※応募様式はBYQのホームページからダウンロードできます。
※応募には助成資格を設けていますのでお問い合わせください。

平成17年度、当機構より助成を受けた5つの事業は ——

① 琵琶湖・淀川水系の水環境改善事業

「琵琶湖における
水上バイクの環境影響調査」
—琵琶湖市民大学



② 琵琶湖・淀川の水辺を愛する活動

「伯母Q五郎、伯母川探検隊」
—伯母Q五郎
「日本のカメの産卵と
孵化を助けよう！」
—かめライフ

「子ども狂言で子ども達や住民に
芹川の素晴らしさを伝える活動」
—NPO法人芹川

「淀川の魅力再発見～
水辺体験教室 その1・その2～」
—西淀自然文化協会

調査隊員、大募集!!

—— 身近な川の水を自分で調べてみませんか ——

2006年わくわくWAQU²調査隊

わくわくWAQU²調査隊って何？

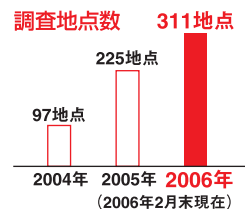
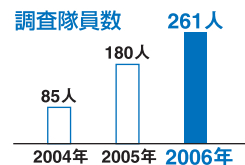
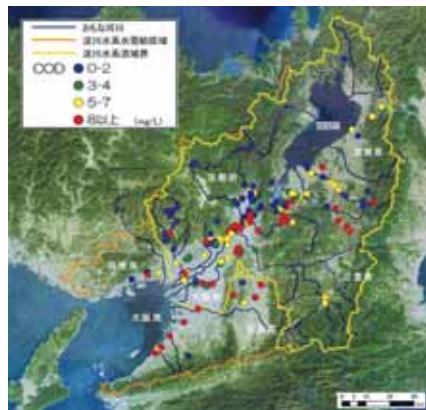
- 身近な川への関心が薄れてきている中、昔のように川と親しむきっかけをつくることで、水環境を考え直す時間づくりを目指して、平成16年（2004年）から活動を始めています。
- 調査隊員になると、身近な川の汚れ（水質）を簡単なキットを使って調べることが出来ます。
- 調査活動は、1年間で4回（春・夏・秋・冬）を予定しています。
- 水質調査に参加すると、水質マップを進呈します。

応募内容

- 応募資格：琵琶湖・淀川流域に住み、水環境に興味がある方
- 応募期間：随時募集中
- 応募方法：申込用紙はBYQホームページ（<http://www.byq.or.jp/>）からダウンロードできます。ホームページをご覧いただけない方は、お問合せ下さい。

水質マップ(COD)

実施日：2005年2月



お申し込み・お問い合わせ

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構

TEL 06-6202-1267 FAX 06-6202-1317 ホームページ <http://www.byq.or.jp/>

京都府の水環境保全 の取り組み

京都府では、平成15年3月に開催された第3回世界水フォーラムを契機に、府民の皆さんが主体となって「流域」の水環境保全の取り組みを広げていくことを目的とした「府民水辺環境ネット事業」を実施しています。

水辺からのメッセージ 府民水辺環境ネット事業

NPO等との協働で水環境の調査、住民交流等の取り組みを行うとともに、取り組みの報告と団体間の交流・連携を図るための「報告・交流会」を開催しました。

今回は、府民の皆さんと一体になった、京都府の水環境に対する取り組みをご紹介します。



府民水辺環境ネット事業（木津川流域での水生生物調査）

昨年12月10日（土）にパルスプラザ（京都市伏見区）で開催された「京都環境フエスティバル」の会場内で、平成17年度の「府民水辺環境ネット報告・交流会」を開催しました。

報告・交流会では、最初に、3月にメキシコで第4回世界水フォーラムが開催されることから、世界の水問題について改めて考えていただくこと、「世界の水問題と私たちの暮らし」と題した基調講演を行いました。講師は、特定非営利活動法人AMネット代表の神田浩史さんで、世界の水問題の現状や私たちの暮らしとのつながりなどについて講演いただきました。

続いて、今年度府民水辺環境ネット事業を実施した5つの団体から取り組みの報告が行われ、最後に、「流域での活動のつながり・広がりのためには」をテーマに、一般参加者を交えて車座での交流・意見交換を実施しました。「水辺は人と人が結びつく場であり、今回の事業の番大きな成果も人との出会いである」「水辺の活動でリスクをゼロにすることはできないので、『川のルール』を作りそのルールを知らせていくことが必要」「水環境保全活動は流域全体での取り組みが大切であり、企業にもおもしろい形で関わってもらうことが必要」など様々な意見が出されました。「府民水辺環境ネット報告・交流会」の詳しい内容はホームページに掲載しておりますので御覧ください。



「府民水辺環境ネット報告・交流会」の様子

<http://www.pref.kyoto.jp/kyonomizu/mizubenet17/kouryukaijainyounhin/>

水環境保全の取り組みは、行政機関のみならず、NPOや学校、企業など流域の水に関わる多様な主体による連携・協働が大切であり、今後とも水に関わる皆様とともに取り組みを進めてまいりたいと考えています。

京都府企画環境部企画総務課事業推進室

（財）琵琶湖・淀川水質保全機構 賛助会員（50音順）

計22社（平成18年3月1日現在）

（株）アイ・エヌ・イー関西支店、（株）アクアテルス琵琶湖事業部、（株）環境総合テクノス、近畿技術コンサルタンツ（株）、（株）建設環境研究所、（株）建設技術研究所大阪本社、国際航業（株）関西支社、国土環境（株）、滋賀県下水道保全事業協同組合、（株）修成建設コンサルタント、（株）新洲、帝人エコ・サイエンス（株）、（株）東京建設コンサルタント関西支店、東洋電化工業（株）、（株）西日本技術コンサルタント、（株）日建設シビル、（株）日水コン、日本建設コンサルタント（株）大阪支社、日本工営（株）大阪支店、（株）ニュージェック、パシフィックコンサルタンツ（株）大阪本社、八千代エンジニアリング（株）大阪支店



財団法人 **琵琶湖・淀川水質保全機構**
Lake Biwa-Yodo River Water Quality Preservation Organization

〒541-0041 大阪市中央区北浜1丁目1番30号 横井北浜ビル3階

TEL 06-6202-1267 FAX 06-6202-1317

ホームページアドレス <http://www.byq.or.jp/>

（財）琵琶湖・淀川水質保全機構は、淀川水系における河川・湖沼水の水質浄化技術及びこれに関連する技術に関する研究開発、水質浄化事業の支援等を行うことにより、淀川水系の水質保全に寄与し、もって潤いのある地域社会の形成と、関係住民の生活環境の向上に資することを目的としています。



古紙含有率100%の再生紙を使用しています。



このフレットは大豆油インキを使用しています。